

災害時における ボランティア支援マニュアル



VOLUNTEER

目次

発刊にあたって

第1章 ボランティア活動を知る

- (1) ボランティアとは何か?2
 - ボランティアは自発的行為2
 - ボランティアの多様性と先駆性2
 - ボランティアの無償性と継続性3
- (2) ボランティア活動の目的とその意義(意味)4
 - 機動性と活動内容の多様性4
 - コミュニケーションが共感を生む5

第2章 災害時におけるボランティア活動の捉え方6

- (1) 個人の意志で動くボランティア7
 - 自発的ゆえに混乱しやすいボランティア7
 - 混乱を回避するための3つの方法8
- (2) ボランティアと行政の協働と行政支援の体制9
 - お互いの特性を活かす9
 - 個々の特性と柔軟性9
 - ボランティアの健康管理・危機管理10

第3章 ボランティアの受け入れのあり方12

- (1) 個人で参加するボランティアへの対応12
 - 多数のボランティアに対応するには12
 - ボランティア登録制度の課題13
- (2) 地元ボランティア団体への行政の対応16
 - 地域特性を尊重した関わりの必要性16
- (3) 他地域からのボランティア団体への行政の対応17
 - 効果を上げるための連絡調整17
 - 連絡調整と情報公開の意味18

第4章 コーディネートのあり方20

- (1) ボランティア・コーディネートの意味20
 - ボランティア・コーディネーターに求められる資質20
 - 平時に機能しているボランティア・コーディネート機関を活かす21
- (2) コーディネートの役割とその方法21
 - 3つの意義と8つの役割21
- (3) 災害時のコーディネートの4つの部門とその機能23
 - ボランティア依頼への対応23
 - ボランティアへの対応23
 - プログラムの開発23
 - ボランティアのフォローアップ23

第5章 ネットワークのあり方24

- (1) ネットワークの必要性とその方法24
 - 共通の目標達成のためのネットワーク24
 - ネットワークが組みやすい環境を創る24
- (2) 平時における地元団体のネットワークのあり方25
 - 平時のネットワークが災害時に生きる25

参考資料集26



発刊にあたって

平成9年1月2日、島根県沖でロシア船籍タンカー「ナホトカ号」が沈没し、多量の重油が流出しました。石川県にも加賀から能登まで、18市町にわたる海岸に重油が漂着し、ドラム缶にして約11万本もの重油が延べ20万人以上の人員によって回収されました。この回収には、平成8年4月に開設した県民ボランティア情報センターが窓口となり、広く県民に呼び掛けた結果、県内外から951件の登録をいただき、延べ97,392人にのぼる多くのボランティアの方々にも参加していただきました。

今回の油流出災害は、石川県はもとより、わが国でもかつて経験のない大災害で、県内でこれほど大規模なボランティア活動が行われたのも初めてでありました。そのため、重油漂着の初期の段階においては、ボランティアの受け入れ体制や作業内容等の周知、コーディネーターの配置などについて、ボランティアと行政との連携や調整が十分であったか、ボランティアの求めに応じた活動先や活動内容等の情報提供が円滑に行われたか、などいくつかの反省すべき点が見受けられました。

そこで、今回の油流出災害を教訓に、災害時においてボランティア活動が迅速かつ効果的に行われるために行政担当者がどのような支援を行うべきかについて、ボランティア団体や関係各位のご意見をいただきマニュアルを作成しました。

このマニュアルが今後の災害時におけるボランティア活動を支援するための手引きとして活用されることを願っております。

なお、本書の作成にあたり、ご協力いただきました関係各位に深く感謝を申し上げる次第であります。

平成9年12月

財団法人
石川県県民ボランティアセンター

理事長 谷 本 正 憲